

筒井淳也『仕事と家族』各章のポイント

まえがき — この本の目指すところ

- ・時間的・空間的に広い視野から「仕事と家族」のあり方を捉えることを通じて、現在の日本社会が抱える問題によりよい見通しをもつて対処できるよう、必要な知識を提示すること

第1章 日本は今どこにいるか？

- ・「国のかたち」と各国の多様性：アメリカ、スウェーデン、ドイツ、そして日本
- ・日本の問題：晩婚化、少子化

第2章 なぜ出生率は低下したのか？

- ・日本における少子化の主要な要因：未婚化
- ・著者が提示する少子化対策：「共働き社会」を目指すべき

第3章 女性の社会進出と「日本的働き方」

- ・「共働き社会」を実現するためには「日本的な働き方」を変えていかなければならない

第4章 お手本になる国はあるのか？

- ・まるごと手本にできるような国・モデルはない
- ・労働力の維持・拡大のためには女性、外国人、高齢者を労働市場に組み入れるしかない
- ・大きな変革になるので、副作用が大きいことも覚悟しなければならない
- ・国の行く末について合意形成を模索すべきである

第5章 家族と格差のやっかいな関係

- ・ケアワークを外部が担うことは家族の負担軽減につながり、カップル形成と出産を促す効果を持つ
- ・家事の公平な分担のための条件
 - 女性が長期的に生計維持に貢献できる労働環境の構築
 - 時間をある程度自由に設定できる柔軟で残業のない働き方
 - 学校教育における家事トレーニング、それを通じた希望水準のある程度の共有
- ・家族・結婚が「意図せざる結果」として格差を維持・拡大させる
- ・格差の緩和・是正には、少なくとも当面は富の再配分に対応するしかない

終章 社会的分断を超えて

- ・性別分業を克服し、「共働き社会」を目指さねばならない
- ・目標として据えるべきは、労働力と出生力の維持・拡大
- ・社会的分断からくる対立は、税や社会保険の負担を一定程度担うことができる所得をともなった仕事
が社会の様々なグループに配分されることで、はじめて緩和される
- ・働いてお金を稼ぐことの持つ社会的連帯促進機能を積極的に評価すべきである